資料６

未定稿

1 指定校等実践事例

非認知能力の育成を学校活動の中で意識化し、生徒自らが考え、判断し、行動できるような環境を構成する取組は、群馬県においても既に多くの実践が行われています。それらの実践を収集し、取組のポイントを整理しました。

この事例を児童生徒や学校の実態に合わせてアレンジしたり、参考に新たな取組を検討したりして活用してください。実践に入る前には、目的を確認し、校内や学年、分掌等の中で目線合わせをしましょう。

構成イメージ

1.学校運営・体制づくり

01 教職員の共通理解（主体性を高める取組とは）
02 教職員の共通理解（スクールポリシー）
03 教職員の共通理解（グランドデザインの見直し）
・
・

2.教科指導・授業改善

01 非認知能力を高めエージェンシーを発揮できる授業
02 各教科での授業改善
・
・

3.総合的な学習（探究）の時間等

01 学校の枠を超える申請型フィールドワーク
02
・
・

4.特別活動等

01 生徒が自由に活動できるAgency Day
02 図書委員会企画・運営のブックフェス
・
・

5.評価（アセスメント）

01 アンケートによる生徒の変容把握
02 行動指標による取組の意識化と改善
・
・

実践事例一覧

未定稿

学校運営・体制づくり		
指定校Aの実践を参考		
1	A1	教職員の共通理解（主体性を高める取組とは）
	A2	教職員の共通理解（スクールポリシー）
	A3	教職員の共通理解（グランドデザインの見直し）
	A4	教職員の共通理解（生徒アンケートによる実態把握）
	A5	教職員の共通理解（取組の振り返り）
指定校Bの実践を参考		
	B1	教職員の挑戦を後押しする学校づくり（最上位目標の設定）
	B2	教職員の挑戦を後押しする学校づくり（具体的な取組の決定）
	B3	教職員の挑戦を後押しする学校づくり（校内研修）
	B4	安心した学校づくり（複数担任制）
その他,学校運営・体制づくり		
	C1	生徒に時間を返す9つの具体的取組
	D1	目指す生徒像づくり【学校運営、校内研修、指定校1年目】
	D2	目指す生徒像に向けた取組【校内研修、学校生活、指定校1年目】
	E1	めざす具体的な姿の共通理解【校内研修、授業改善、具体的な姿】
	F1	教職員の共通理解【学校運営、義務教育学校準備、行動指標】
	F2	教職員の共通理解【学校運営、義務教育学校準備、行動指標】
教科指導・授業改善		
2	01	非認知能力を高めエージェンシーを発揮できる授業
	02	各教科での授業改善【校内研修、授業改善、具体的な姿】
	03	
	04	
	05	
	06	
	07	
	08	
	09	
	10	
総合的な学習（探究）の時間等		
3	01	学校の枠を超える申請型フィールドワーク
	02	
	03	
	04	
	05	
	06	
	07	
	08	
	09	
	10	
特別活動等		
4	01	生徒が自由に活動できるAgency Day
	02	生徒主導による校則の見直し
	03	図書委員会企画・運営のブックフェス
	04	
	05	
	06	
	07	
	08	
	09	
	10	
	09	
	10	
評価（アセスメント）		
5	01	アンケートによる生徒の変容把握
	02	行動指標による取組の意識化と改善
	03	アンケートによる評価【評価、義務教育学校準備、指定校2年目】
	04	
	05	

さらに追加予定

作成予定

作成予定

作成予定

作成予定

未定稿

実践事例

1-A1 教職員の共通理解（主体性を高める取組とは）

取組のねらい

生徒の主体性を高める取組を検討、計画する

重視した非認知能力

- 創造性
- 批判的思考力
- 向上心

課題感

・どうすれば生徒の主体性を高めることができるか。
・どうすれば生徒の当事者意識を高めることができるか。

取組の内容

○これまでの教育を否定したり、突然の大改革とならないように、以下のことを前提とした上で、職員会議等にて意見交換

- 「無理な改革はしない」
- 「できる部分から徐々に始める」
- 「慌てず来年度からできる取組を考える」
- 「継続して議論していく必要がある取組でも構わない」

○すぐに取り組めること（例）

・「生徒の主体性を育てる授業」※作り　※ 2-01

※講義形式の一斉指導だけで、生徒の主体性を高めることは難しい。ではどのようにすればよいかを教員それぞれが考える。

○検討に時間を要すること

・「校則の見直し」の機会を生徒へ※　※ 4-01

※校則に基づく教員からの指導ではなく、生活委員会、生徒会、有志の生徒を中心とした見直しができるようにしていく。

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P これまでの教育を否定しない。むしろ今までの取組の中にもたくさん生徒の主体性を高めることがあることを確認する。

A すでに成果のある取組を確認することで、主体性を高める取組の共通点に気付くことができた。

A 「生徒の主体性を高める取組にはどのような工夫が必要か」という新たな視点で教育を振り返ることができるようになった。

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

・何から始めればよいか不安があったが、トップダウンで大きな改革を行うのではなく、教員同士が日々の教育活動を振り返ることから始めたことで無理なく目線合わせができた。

未定稿

実践事例

1-A2 教職員の共通理解（スクール・ポリシー）

取組のねらい

目指すべき学校像を明確にしたスクール・ポリシーの策定

課題感

生徒、教員等はどのくらいスクール・ポリシーを理解してるのだろうか。

重視した非認知能力

- 目的意識
- 責任感
- 協調性

取組の内容

群馬県立高等学校のスクール・ミッションの確認

（県立高等学校や中等教育学校の存在意義や期待されている社会的役割、目指すべき学校像について）

↓

スクール・ポリシー『３つの方針』の検討

（スクール・ミッション及び既存のグランドデザインを踏まえ、原案を作成）

・グラデュエーション・ポリシー（GP）
　卒業するまでにこのような力を身に付けられる学校です

・カリキュラム・ポリシー（CP）
　このような学びの場を提供する学校です

・アドミッション・ポリシー（AP）
　このような皆さんを待っている学校です

↓

スクール・ポリシー決定

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P スクール・ポリシーの中で自律した学習者を育むことを目指す学校であることを示した。

A スクール・ポリシーの策定を通して、教員それぞれが漠然と持っていた目指すべき学校像について意識合わせができた。また、生徒・教員間においても共通理解が図られた。

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

スクール・ミッションや既存のグランドデザインを確認し、学校の存在意義や社会的役割を考えることで、スクール・ポリシー策定の検討が建設的に進められた。

未定稿

実践事例

1-A3 教職員の共通理解（グランドデザインの見直し）

取組のねらい

グランドデザインとスクール・ポリシーの整理

重視した非認知能力

- 目的意識
- 批判的思考
- 創造性

課題感

グランドデザインとスクール・ポリシーには、同じ内容が含まれているため、理解のしやすい整理が必要である。

取組の内容

【現状】
2020年度 グランドデザイン策定
2024年度 スクール・ポリシー策定 ※1-02
であったため、目指す生徒の姿や学校像などをそれぞれが示しており、ダブルスタンダードになっている。

【変更（一本化）】
・グランドデザインの年次見直しのタイミングで検討。
・新たに策定されたスクール・ポリシーをグランドデザインに取り込み一本化した。
・生徒、教員、保護者、地域、受験生にとって「この学校はどういう学校か」といった特徴を一枚で分かるようにした。

工夫のポイント P 成果 A 課題 C

P グランドデザインの見直しのタイミングでスクール・ポリシーと合わせて一本化した。
A ダブルスタンダードとなっていた目指すべき学校像を整理し１つにまとめることできた。
A 学校関係者に対して、学校の特徴を理解しやすく示すことができた。

Point Achievement Challenge

所感・振り返り

スクール・ポリシー策定の議論をしていたため、グランドデザインとの整合性をスムーズに図ることができた。今後も年度ごとに見直しすることで形骸化させることなく活用していきたい。

未定稿

実践事例

1-A4 教職員の共通理解（生徒アンケートによる実態把握）

取組のねらい

非認知能力について生徒の理解度や実態を知る

重視した非認知能力

- 共感力
- 傾聴力
- 向上心

課題感

・生徒は非認知能力を理解しているのだろうか。また、自分の非認知能力をどのようにとらえているのだろうか。

取組の内容

第１回生徒アンケートの実施　（４月下旬～５月上旬回答）

○アンケートの回答は任意

○質問項目（例）

・「あなたは『非認知能力』とはどういった能力なのか、自分なりに説明できますか」

・「自分で考え、判断し、行動できる力」について、現時点でのあなたの自己評価をしてください（５段階）。

第１回アンケート結果報告（５月下旬）

※教師による考察、コメントとともに報告

第２回生徒アンケート（任意）の実施　（11月下旬～12月中旬回答）

第２回アンケート結果報告（１月下旬）

↓

主体性を高める取組※を点検する際の資料とする。※ 1-01

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P 生徒の負担を考え、アンケートの回答を任意とした。

A 生徒が非認知能力をどのようにとらえているかを知ることができた。また、非認知能力に関する生徒の関心が高まった。

A 次年度の学校教育活動（特に、主体性を高める取組）を検討、計画する際の資料とすることができた。

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

・生徒の非認知能力の理解度や実態を知るなかで、授業や部活動、学校行事などで非認知能力を高めることができていると考えている生徒が多いことが分かった。

未定稿

実践事例
1-A5

教職員の共通理解（取組の振り返り）

取組のねらい

主体性を高める教育活動を点検し、よりよくする

重視した非認知能力

- 協調性
- 批判的思考
- 創造性

課題感

・今年度の主体性を高める取組の振り返りが必要である。
・次年度はさらによい取組をしていきたい。

取組の内容

生徒アンケート※の結果をもとに取組の検証※ 1-01

↓

令和７年度 主体性を高める12項目（素案）作成

↓

職員会議にて決定（２月）

（例）

① 生徒の『主体性』を育成する『授業改善』※ 2-01
⑤ 生徒の『自由度の高い時間の有効活用』を支援する『進路指導』
⑧ 生徒主体の『ルールメイキング』への挑戦
⑩ 生徒の主体性を発揮できる『学校行事』の設定※ 4-02 4-03
⑪ 生徒の主体性を発揮できる『部活動』の設定
⑫ 生徒の主体性を発揮できる『環境』の設定

↓

生徒・保護者へ通知

工夫のポイント P 成果 A 課題 C

P 生徒アンケートの結果から次年度の方向性を検討した。
P 項目を「教科指導」「進路指導」「生徒指導」「特別活動」の４つについて具体化した。
A １年間の取組と生徒の実態や変化を踏まえると、次年度に特に重点的に取り組みたいことが見えてきた。

Point Achievement Challenge

所感・振り返り

・生徒の実態は毎年異なるため、生徒アンケートを基に職員の共通理解を図り、項目を設定することができたことで、次年度の方向性について納得感が得られた。

未定稿

実践事例

1-B1 教職員の挑戦を後押しする学校づくり（最上位目標の設定）

重視した非認知能力

- 自律する力
- つながり
- グリット

取組のねらい

全教職員が当事者意識をもてるようにする

課題感

・新しい取組に挑戦することに慣れていない教職員
・生徒が変わるために、まず教職員の意識改革が必要

取組の内容

（指定校１年目　準備段階）

・年度始め、学校経営構想図で
「教職員も生徒も挑戦！
～イノベーションを起こせ大作戦～」を校長が提示
⇒先生方が挑戦を楽しむ学校風土の醸成

・夏期休業中、先生方全員が、生徒をさらに良くするために
どのような力を伸ばせばよいかを考える。
（生徒の長所、伸ばしたい力、手立て）
⇒先生方の当事者意識の醸成

・２学期始め、学校の最上位目標の決定
『夢や目標をもち、実現に向けて自ら行動できる生徒』
３つの重点　「自律する力」「つながり」「グリット」
⇒先生方全員でつくったという当事者意識と共通理解をもつ

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P 指定校１年目、実践準備段階の取組。管理職のトップダウンではなくボトムアップにするための意識改革
A 教職員の取組で学校が変わっていくことが実感できることで、教職員の当事者意識の向上
A 学校の目指す方向性の共通理解

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

・指定校１年目の取組。教職員の共通理解を図り、全教職員が当事者意識をもつことが大切。意見を言いやすい学校風土、安心感のある職員室の雰囲気を普段からつくっていくことも大切

未定稿

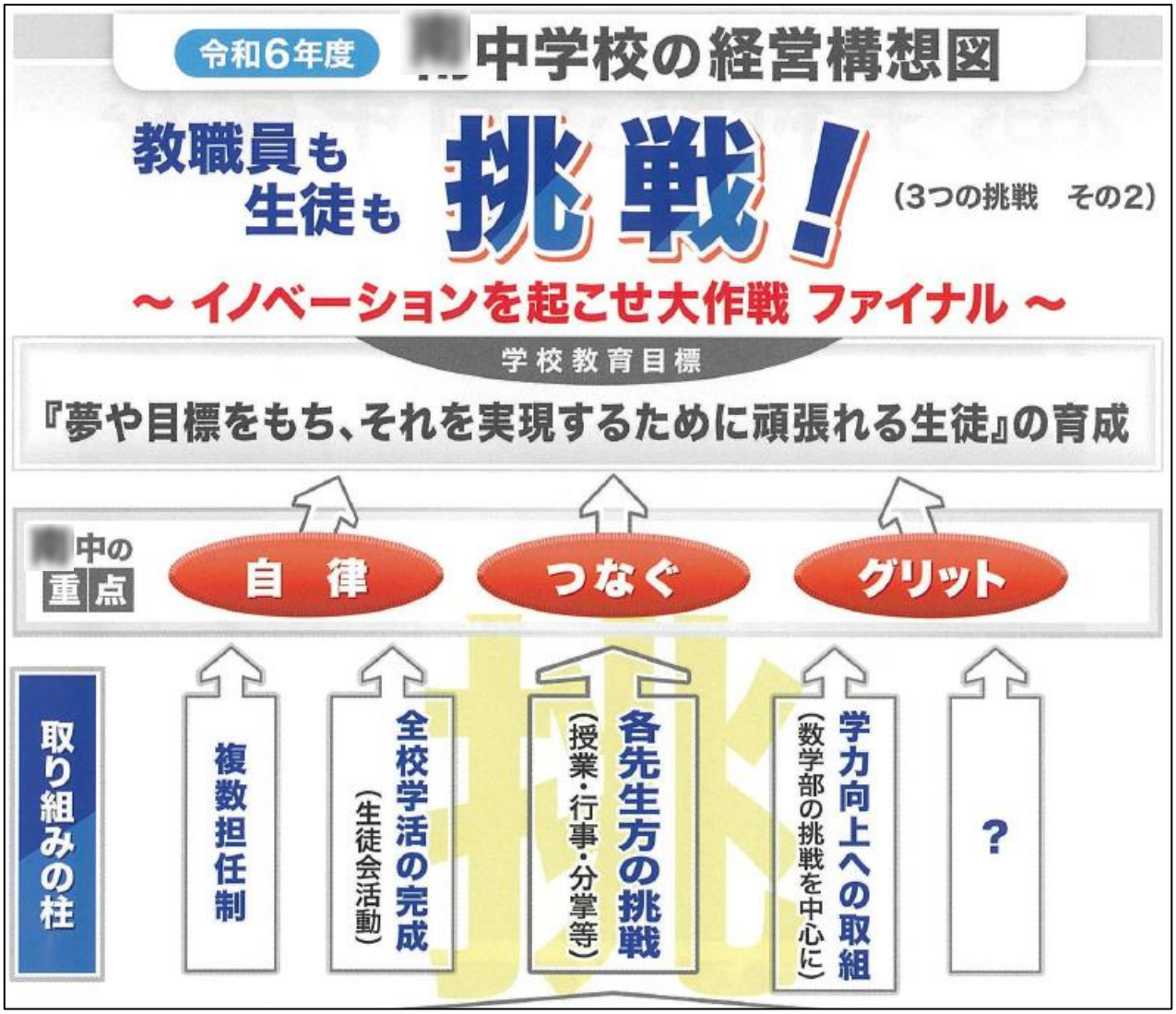
実践事例

1-B1 教職員の挑戦を後押しする学校づくり（最上位目標の設定）

参考資料

＜夏休み先生方へのアンケート内容＞

1. 現在の　中の生徒の長所・よい点は何だと思いますか？
2. 　中の生徒をさらに成長させるためには、これからどのような力を付ければ（能力を伸ばせば）よいと思いますか？
3. 長所をさらに伸ばすには、もしくはさらに成長させるために必要な力を付けるためには、２・３学期に、どのようなことに取り組めばよいと思いますか？そして、２・３学期に、自分が提案、実践（挑戦）することを念頭に置いて、できるだけ具体的に書いてみてください。１つでなくてもよいです。（学年や学校で、総合や特別活動で、学校行事で、委員会で、個人の授業で、分掌で・・・等）



未定稿

実践事例

1-B2 教職員の挑戦を後押しする学校づくり（具体的な取組の決定）

参考資料

令和6年度 ■中学校の経営構想図

教職員も生徒も 挑戦！ （3つの挑戦　その2）

～ イノベーションを起こせ大作戦 ファイナル ～

学校教育目標

『夢や目標をもち、それを実現するために頑張れる生徒』の育成

■中の重点

自律

つなぐ

グリット

取り組みの柱

複数担任制

全校学活の完成（生徒会活動）

各先生方の挑戦（授業・行事・分掌等）

学力向上への取組（数学部の挑戦を中心に）

？

複数担任制

- 自律を促す複数担任制の模索
- 唯一人取りこぼさない学年経営
- ■スタイルの創造構築（特に進路指導、行事、面談等）

全校学活&生徒会

- 学校をさらに良くしようと行動する生徒の育成
- 対話による問題解決の場の設定
- 生徒の課題を取り上げる学活
- トライ&エラーの体験と支援
- 生徒自ら問題に気付く力の育成
- 教師の学活力の向上

学力向上

※数学部の取組を中心に

- 失敗をしてもよい環境作り
- 生徒による授業クラス選択
- 単元テスト&再チャレンジテスト
- 数学部以外の教科でも生徒が自律して学習に取り組めるようにチャレンジ

先生方の挑戦

☆生徒をもっと成長させたいと考える教職員
☆実現が難しいと思えることでも前向きに挑戦する教職員
☆新しい発想で計画、提案できる教職員
☆未来を意識するFeed Forward的な考え方をする教職員
☆前例踏襲せず、ねらいを明確にして工夫改善する教職員
☆生徒に夢や想いを語る教職員
☆常に教師力の向上に努める教職員

- 3つの力を意識した挑戦　※一人（一班）一挑戦
- 3年間を見通したＰｌａｎ
- 探求学習、問題解決的な学習の実践
- ねらいを明確にし、3つの力を意識した授業、行事、生徒指導
- 主体的に取り組む家庭学習（宿題等）
- 教員の授業交流、対話、組織的な取組

言葉のスキルの向上

- 非認知能力育成の基盤となる教職員の言葉のスキルの向上
- 自らSOSを発信できる力
- 自己決定を促す魔法の言葉
  - ・どうしたの？
  - ・君はどうしたいの？
  - ・何を支援してほしいの？

その他

- 全校生徒のつながる機会の設定（全校道徳、縦割り活動、生徒会活動等）
- 生徒の挑戦、教職員の挑戦を援助する校風づくり

未定稿

実践事例

1-B3

教職員の挑戦を後押しする学校づくり（校内研修）

取組のねらい

教職員が自ら挑戦できる校内研修づくり

重視した非認知能力

- 自律する力
- つながり
- グリット

課題感

・新しい取組に挑戦することに慣れていない教職員
・生徒が変わるために、まず教職員の意識改革が必要

取組の内容

（指定校２年目）

・学校の最上位目標の達成に向け、それぞれの教員が考えた取組を研修、実践できる校内研修の組織作り。

・６つのチームによる挑戦。年間を通して、各チームで考えた研修内容を実践。各チームで実践の成果をまとめ全体で共有。
　複数担任制･･･複数担任制による、学級・学年経営
　生徒会（全校学活）･･･生徒会活動と連携した全校学活
　生徒会（行事）･･･生徒全員が主体的に取り組める行事
　総合的な学習の時間･･･探求活動をメインにした旅行型行事
　道徳･･･全校・縦割り道徳
　教科･･･生徒が学習計画を立てる自律した学習

・その他の必要な研修はテーマ外研修として実施
　特別支援教育、教育相談、ＡＥＤ講習

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P 教職員の主体的な取組を引き出す体制づくり。それぞれの得意な分野で研修や学校運営に挑戦。
A 教職員の研修への主体的な取組。
A ベテラン、若手がそれぞれの得意分野を活かし、互いに学び合う教職員集団。

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

・管理職からのトップダウンではなく、教職員一人一人が当事者意識をもち、自分で考えて校内研修に参画する体制をつくったことで、活発な取組の様子が見られている。

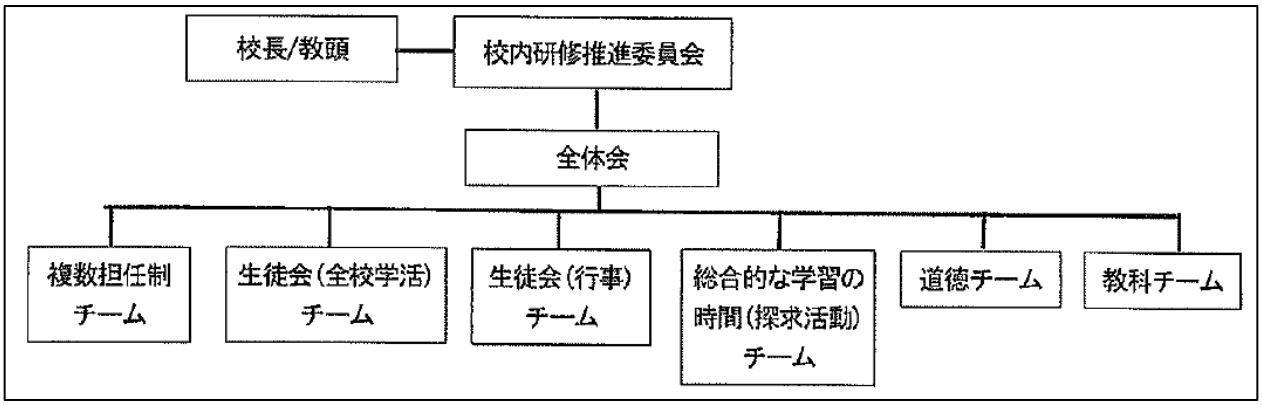
未定稿

実践事例

1-B3

教職員の挑戦を後押しする学校づくり（校内研修）

参考資料



年間計画

日付	種別	内容	
4月10日	全体	スタートアップ	1学期
4月22日	各チーム	チーム部会①	
5月20日	メンター	メンター①	
5月21日	全体	町教職員研修会	
5月27日	全体	アレルギー対応について	
6月10日	全体	「対話のスキル」講座	
6月17日	各教科	教科部会（計画訪問準備）	
7月11日	全体	計画訪問	
8月7日	メンター	メンター②	夏休み
9月9日	各チーム	チーム部会②	2学期 授業参観 実践
10月7日	各チーム メンター	チーム部会③ メンター③	
11月25日	各チーム	チーム部会④	
1月27日	各チーム メンター	チーム部会⑤ メンター④	3学期 1年のまとめ
2月17日	各チーム メンター	チーム部会⑥ メンター⑤	
3月10日	全体	1年のまとめ	

未定稿

実践事例
1-B4

安心した学校づくり（複数担任制）

取組のねらい

生徒を複数の教師で多角的にみとる

重視した非認知能力

- 自律する力
- つながり
- グリット

課題感

・１学級１担任制の改革推進
・個の生徒に応じた支援の一層の充実

取組の内容

（指定校２年目　複数担任制１年目）

１年生（４クラス）で実施
実践を記録し、課題と改善案をまとめ、次年度につなげる

（実践概要）

・入学式から５月高原学校まで、担任を固定し、新１年生が中学校に慣れ、学校生活が安定するようにする
・５月高原学校終了後から１週間ローテで担任を変更
　※クラス担当６人＋主任で実施
・日直、清掃等の当番活動、掲示物等を学年で統一
・生徒主体の活動の充実
　※評議や委員会でクラス課題、学年課題を話し合う場の設定
・生徒がどの教員にも相談できる体制づくり
　※三者面談は、面談する教員や希望日を、生徒と保護者が決定

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P　導入前からの準備と教職員の共通理解が大切。教職員の情報交換を密に行うことが大切。
A　複数担任制を導入することで、担任依存が弱まり、生徒の主体性や自律する力が向上。
A　生徒は様々な教員と関わることで相談できる対象が増え、安定した学校生活を送ることができている。

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

・これまでの学級担任の意識から、学年全体が自分のクラスといった教職員の意識改革が大切。学年経営や生徒情報等について、学年団での効果的な情報交換の手段を構築することも大切。

未定稿

実践事例

1-B4

安心した学校づくり（複数担任制）

参考資料

◎取組の柱

今年度の実践を記録し、課題と改善案をまとめ、来年度の[illegible]スタイルを作る。

Ⅰ　複数担任制について

1、ねらい

・生徒を複数の先生で多角的にみとることができる。
（多くの先生が関わることで子どもの変化に気付いたり、さまざまなアプローチができる）
・生徒は話しやすい先生に相談でき、いじめや問題行動に早期に対応できる。
・多くの教師と接することになるためコミュニケーション能力の向上が期待できる。（つなぐ力の育成）
・生徒は担任に頼り切ることが難しくなるため、生徒主体の活動を充実させ、生徒が主役になって学級や学年づくりを進めていけるように支援する。（自律する力）
・[illegible]の教育行政方針の「誰もが安心して楽しく通える魅力ある学校づくりの推進」の中で「1学級１担任制の改革推進」が掲げられている。

2、導入に向けての不安な事項

・学年全体が自分のクラスと考えられるようにする。
（固定担任制しか経験がない教職員のためこれまでと意識を変える）
・学年主任だけでなく、一人一人が学年経営に参画する意識をもつ。
・一学級一担任ではないので、生徒がどの教員に相談しても良いことを徹底する。それでも相談する先生が分からないときは、その週の担当か学年主任にするように指導する。
・自分の特色を出す場合は、学年会で情報を伝え、一緒に行うか自分が担当の時に実施する。
・複数担任制を[illegible]の実態に合わせて、進化、改良する必要がある。スタートは他校のマネから始めるが、他校のマネだけでは必ず行き詰まる。南中スタイルの構築をする。
．３年の進路指導の方法を２年間かけて考える。
．行事への取り組み方について考える。そのときの担当が中心となって関わる方法もあれば、生徒が一緒に練習をしてくれる担当を選ぶ方法もある。生徒が満足する方法で実践を。
．生徒も学年経営に参画させるため、集会、学活や道徳、また評議員や実行委員等を上手に活用することが必要。

3、今年度の実践計画

①ローテーションについて

・入学式から高原学校まで
　担当を固定することで、約束事等の徹底や学校生活を安定させるようにする。
・高原学校修了後
　１週間で担当を変更する。
　（１組→２組→副担→３組→４組→副担等、ローテの順番を決めておく）
・春休み中にローテすることで準備しておくこと
　担任と副担の仕事分担の切り替えをスムーズにするために、仕事カード等を使って仕事を明確にしておく。（コンテナ室担当、掲信（集金）、出席簿記入、朝の出欠の確認等々）
・生徒指導や事務仕事が偏る先生がいる時期は、主任が順番やローテの期間を変えるなど、コントロールする。

②その他

・今年度はクラス担当６人＋主任で実践する。将来的には４クラスを５人で担当する可能性もある。
・情報交換が課題となる。瞬時に交換できるツールがほしい。個人の Google アカウントを使って、チャットを使用するのはどうか。情報交換ツールには管理職と教務を入れる。いつも情報交換をすることで学年会の時間を短縮できないだろうか。
・掲示物の統一
・教員の清掃担当場所は担当が変わると一緒にローテする。
・清掃、給食や日直等の当番活動など、学年で統一する。
・高原学校等、行事について
　高原学校のねらいを学習規律の定着や集団生活の仕方にすることで、ほとんどの活動については教師が主導で決め、準備する。
・各行事については年度初めに２名ずつで行事担当を決めておく。
・各行事のクラス練習については、その週のクラス担当が行う。もし生徒が違う先生にお願いに来たら引き受ける。

未定稿

実践事例
1-C1

生徒に時間を返す９つの具体的取組

取組のねらい

生徒の主体性を高めるため、生徒に時間を返す。

重視した非認知能力

- 積極性
- 向上心
- 協働

課題感

・生徒が挑戦する気持ちを忘れずに、自らの成長のため、主体的に行動して欲しい。

取組の内容

○カリキュラム・マネジメントの視点からすべての教員に加え、生徒や保護者、同窓会が一緒に考え作成。作成後も見直しを図り、改善を目指す。（令和６年２月時点）

1．Ａタイム (Agency Time) の実施
2．長期休業期間等における個別最適な学習支援
3．チーム担任制の試行
4．定期考査、土曜講座、模試等の見直しによる「学び」の時間の確保
5．総合的な探究の時間の充実
6．生徒から構成される「ＳＡＨ委員会」からの提案・実践
7．開校記念式典の実施方法の見直し
8．生徒主体の修学旅行実施の検討
9．ＳＡＨの取組の趣旨の周知・徹底、評価・改善

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P 決めたことを実行すればすべて上手くいくとは考えず、職員会議等で見直しを図ることによって継続的な改善を行った。

A 生徒だけでなく教員の中にも挑戦しようという気持ちが高まり、１つの考えに対してたくさんの意見が出るようになった。

A 計画書やリーフレットを作成したことで、学校内外の関係者が容易に学校の取組を把握することができた。

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

・意見が分かれた時でも「生徒に時間を返し、自ら考えたり実行したりする機会や場を設けることで、主体的に成長しようとする生徒を応援しよう」という共通理解により目線合わせができた。

未定稿

実践事例

1-D1

目指す生徒像づくり【学校運営、校内研修、指定校１年目】

取組のねらい

全教職員で目指す生徒像を考える

重視した非認知能力

- 自律する力
- つながり
- 粘り強さ

課題感

・指定校事業へ向けて、全職員の共通理解を図る
・全職員が自分事として関われるようにする

取組の内容

（指定校１年目　準備段階６月～１０月）

・非認知能力についての校内研修の実施
・本校の生徒の生活面・学習面での良さや課題、生徒に将来に向けてどのような力を身に付けてほしいかについて、職員にアンケートの実施

・先生方の思いを語り合う校内研修の実施（夏期休業中）
①生徒の生活面・学習面の良さ・課題について
②教員が感じる学習指導面・生徒指導面での課題について
③生徒を取り巻く生活環境や校風等の良さや課題について

・生徒アンケートの実施
・これまでの話合い、生徒アンケート等をもとに、「みんなで目指す生徒像」についての話合い
→目指す生徒像の決定

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P 指定校１年目、実践準備段階の取組。管理職のトップダウンではなく全職員で語り合い、みんなで目指す生徒像を決定。
P 先生方だけでなく、生徒の思いも大切にしたみんなで目指す生徒像の作成。
A 教職員の当事者意識の向上と学校の目指す方向性の共通理解。

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

・指定校１年目の取組。教職員の共通理解を図り、全教職員が当事者意識をもつことが大切。意見を言いやすい学校風土、安心感のある職員室の雰囲気を普段からつくっていくことも大切。

未定稿

実践事例

1-D1

目指す生徒像づくり【学校運営、校内研修、指定校１年目】

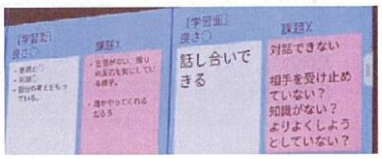
（参考資料）

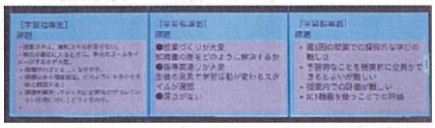
先生方の思いを語り合う、聞き合う夏休み

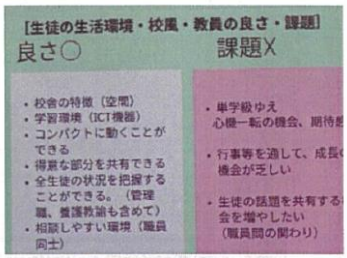
①生徒の生活面・学習面の良さ･課題について

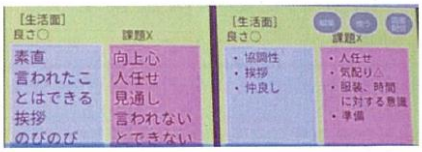
②各教員が学習指導面や生徒指導面で課題に感じていることについて

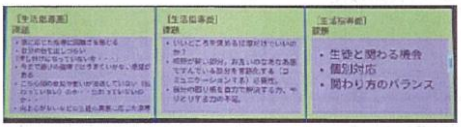
③生徒を取り巻く生活環境や校風、教員の良さや課題などについて











[redacted]で目指す生徒像 自律した生徒

※自律：自分で考え、判断し、決定し、行動できる

本校の教育目標	みんなで目指す生徒の姿
愛する	・思いや考えを伝え合い、聴き合う生徒 ・つながりと関わりを大切にする生徒
考える	・自らより良くしようとする生徒
行　う	・粘り強く行動する生徒 ・新たなことに挑戦する生徒

未定稿

実践事例

1-D2 目指す生徒像に向けた取組【校内研修、学校生活、指定校１年目】

取組のねらい

目指す生徒像に向けた取組の実施

重視した非認知能力

- 自律する力
- つながり
- 粘り強さ

課題感

・授業、各分掌での具体的な取組
・目指す生徒像の具体的なイメージの共有

取組の内容

（指定校１年目　準備段階１０月～）

・目指す生徒像について、職員での共通理解を図る。

・授業、校務分掌等で具体的な取組の実施。
①目指す生徒像を意識した授業改善
→重点のポイントや工夫、支援等の内容の記録、共有

②校務分掌での取組
→学校行事の企画（案）にも目指す生徒像を明記
→行事、委員会活動等での生徒の自主的な活動の場面の増加

③エピソードカード（いいとこ探し）への記録
→教員が生徒の姿をエピソードカードに記録して共有
→教職員で共有することで、目指す生徒像の具体的なイメージの共有がすすみ、教職員が共通の見取りの感覚をもつ

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P 指定校１年目、実践準備段階の取組。全職員で決定した「目指す生徒像」に向け、具体的な取組を教員が実施。それぞれの教員の得意を活かした取組を行う。

A 目指す生徒の姿を明記し、教職員が共通の意識をもつことで、見取りや支援の質が向上。

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

・指定校１年目の取組。管理職からのトップダウンではなく、教職員が考え、挑戦し、実践できる体制を構築することが大切。当事者意識を持つことで教職員の意欲も向上。

未定稿

実践事例

1-D2 目指す生徒像に向けた取組【校内研修、学校生活、指定校１年目】

（参考資料）

①授業で意識してやってみよう！

授業

教科（学年）	担当	単元等	「こんな力をつけてほしい」と思いを持って工夫や支援、意識したこと	《愛する》《考える》《行う》	目指す生徒像
数学	榊原	校舎の高さを求める	自分が考えた方法で、相似を利用しながら校舎の高さを求める学習をしました。班別で実施しましたが、高さを求めるためにどの長さを図るか、どんな角度で写真を取るかなど工夫しながら実践をしていました。	行う	②新たなことに挑戦する生徒
保健体育	青木	マット運動	自分の演技をもとにして、アドバイスをもらい、そのアドバイスを自身の活動に取り入れようとする姿が見られました。また他者への演技の支援を行う生徒も多く、自分のみならず、集団としてよい演技ができるように活動していました（2年）	行う 考える	①粘り強くやり抜く生徒 自らをより良くしようと考える生徒
音楽（2年）	富澤	鑑賞 「交響曲第５番ハ短調」 ベートーベン	曲を鑑賞し、自分が感じ取ったこと、聴き取ったことを他の友だちに伝え合う活動の中で、自分の考えと違う意見もしっかりと認めていく、という姿勢が見られた。相槌を打ってしっかりと聴く態度がありました。	愛する	①思いや考えを伝え合い、聴き合う…
			課題の難易度がやや高いものを設定し、生徒が課題		

②校務分掌での取組

令和５年度 立志式について（案）

《考える》自らより良くしようと考える生徒
立志の節目に、過去の自分や今現在の自分について振り返ったり、周囲の人の関わりについて改めて知ったりすることを通して、自己のあり方や将来のより良い生き方について考える。

《行う》 ②新たなことに挑戦する生徒
生徒による立志式の運営を通して、新しいことに前向きに取り組みながら責任感を持って取り組める力にする。

2　日　時　令和６年２月２日（金）５～６校時
開会１３：３０(保護者１３：２０　２年生着席１３：１５　１年生着席１３：２０)
（R4　2年生13：20　1年生13：45　保護者13：50　開会14：00）

3　会　場　[redacted]

4　参加者　１，２年生、３年担当を除く全職員、２年保護者、来賓（　14名）

5　服装　生徒制服着用

職場体験発表会　２年　（案）

非認知能力育成との関わり：《愛する》①人とのつながりやかかわりを大切にする生徒
・3年生は昨年度体験できなかった職場体験活動を自分のこととして聞くことができるようにする。
・1年生は来年度の職場体験へ向かう自分の姿と重ねて発表を聞くことができるようにする。
・2年生は、発表内容を通して体験活動を快く引き受けてくださった地域の方に感謝の気持ちをもてるようにする。

2　場所：体育館

3　方法：職場体験学習の個人発表（6～7人×4班編成）

4　[redacted]

5　事前準備：①保護者への案内（発送済　②事業所の方へのお礼状＋案内（発送済）

6　当日準備：電子黒板3台（2年用、食堂用、1年生か3年生の電子黒板）＋プロジェクター
椅子（下中生　76、保護者　25、事業所　13＋α　）約120脚

③エピソードカード（いいとこ探し）に記録してみよう！

愛する			考える			行う		
①思いや考えを伝え合い、聴き合う生徒			自らより良くしようと考える生徒			①粘り強くやり抜く生徒		
②人とのかかわりやつながりを大切にする生徒						②新たなことに挑戦する生徒		
場面	いつ	記入者	場面	いつ	記入者	場面	いつ	記入者
②体育館でバスケットボール部が練習中しているときに、体育館部活以外の顧問の先生が顔をだしたときに、気付いて自分たちから挨拶を大きな声でよいタイミングで伴っていた。	12/5	森平	小中合同のいじめ防止こども会議の自己紹介（班）の場面で、「名前＋マイブーム」を話題にする流れであったが、決められた話題以外を入れながら、小学生が話し合いをしやすいように進行を工夫していた	12/1	森平	②英語検定を受験するのを迷っていた生徒（[redacted]）が、受験する決断をしたこと	１２月	森平
②アンサンブルの練習を行うとき、部長が自分の担当パート以外の譜読みを行い、そのパートを担当する友人に声をかけて一緒に練習することができていた。	１０月～１１月	富澤	部活動の練習メニューを生徒中心で決め、さらに必要だと思う部分を顧問が指示している。	9月～	榊原	①２学期の振り返りの記載欄に、いつもはそれほど文章を記入できない[redacted]生徒[redacted]が、欄いっぱいに２学期の成長したところを書いていたこと。	12/7	森平
②授業のとき、わからない問題を「教えて」と友達に頼んだら、気持ちよく「いいよ」と言って教えてくれる生徒がいた。	１２月６日	榊原	数学でできないところがあるから、個人的にプリントが欲しいと要望し自ら取り組む生徒がいた。	１１月	今井	②１年生の技術の製作の時間にはやくに授業の内容が終わったときに、「こんな工夫を加えていいか」と聞きに来て取り組んでいた。	１２月	今井
フォローアップ学習会では、参加生徒が問題を聞きあい、教えあいながら自主的に学習を進めている。		佐藤	生活委員会で、花植えが終わった後、まだ時間があったので、２年生の[redacted]君が、「自転車置き場の周りをきれいにしましょう」と呼びかけてくれた。	12月6日	山田	②１年生の[redacted]さんが、花に水をあげることを、毎回自分から気付いて行っている。	12月	森田
②朝、花に水やりをしていたとき、３年生の[redacted]さんが「ごくろうさまです」と声をかけてくれた。	12月6日	山田	国語の授業で音読を朗読にしたが、自分なりに工夫を重ね、とても良い作品を仕上げていた。またお互いの良いところを相互に評価することができた。	１２月	谷川	①生徒が英語で最も苦手とする一つの長文読解で、どの生徒も最後まで内容をとらえようとしたり、キーワードで答えている人は主語＋動詞の形で答えようと助言すると多くの生徒がその	１２月	森平

未定稿

実践事例

1-E1 めざす具体的な姿の共通理解【校内研修、授業改善、具体的な姿】

取組のねらい

授業改善を通して育成を図る力の共通理解

重視した非認知能力

- 主体性
- 表現力
- 共感力

課題感

・教職員間での育成を図る力の共通理解が必要
・各教科の教科特性を意識した授業づくり

取組の内容

（指定校１年目　準備段階）

・目指す児童・生徒像「夢に向かってかがやく子」に向け、学習場面で身に付けていってほしい力について、認知能力、非認知能力の両面から全職員で検討。

認知能力　･･･思考力・判断力・表現力／知識・技能
非認知能力･･･主体的／論理的・計画的・先を見通す／工夫・調整する／対話・違いを受け入れる／自分も相手も大切にする／前向き・ねばり強さ／自分を律する

・学習場面での具体的な生徒の姿の共通理解→「思考を愉しむ」

・「思考を愉しむ」ための鍵の検討（三つのキー）と共通理解
自分なら【主観】／なぜなら【客観】／あなたとなら【対話】
→各教科で三つのキーを取り入れた授業改善の実施

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P 管理職からのトップダウンではなく、全職員で話し合いながら進める校内研修。めざす生徒の姿の共通理解。
A めざす生徒の姿の話し合いにじっくり時間をとったことで、教職員の共通理解を図ることができた。
A 共通事項と、各教科で工夫できる要素の融合。

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

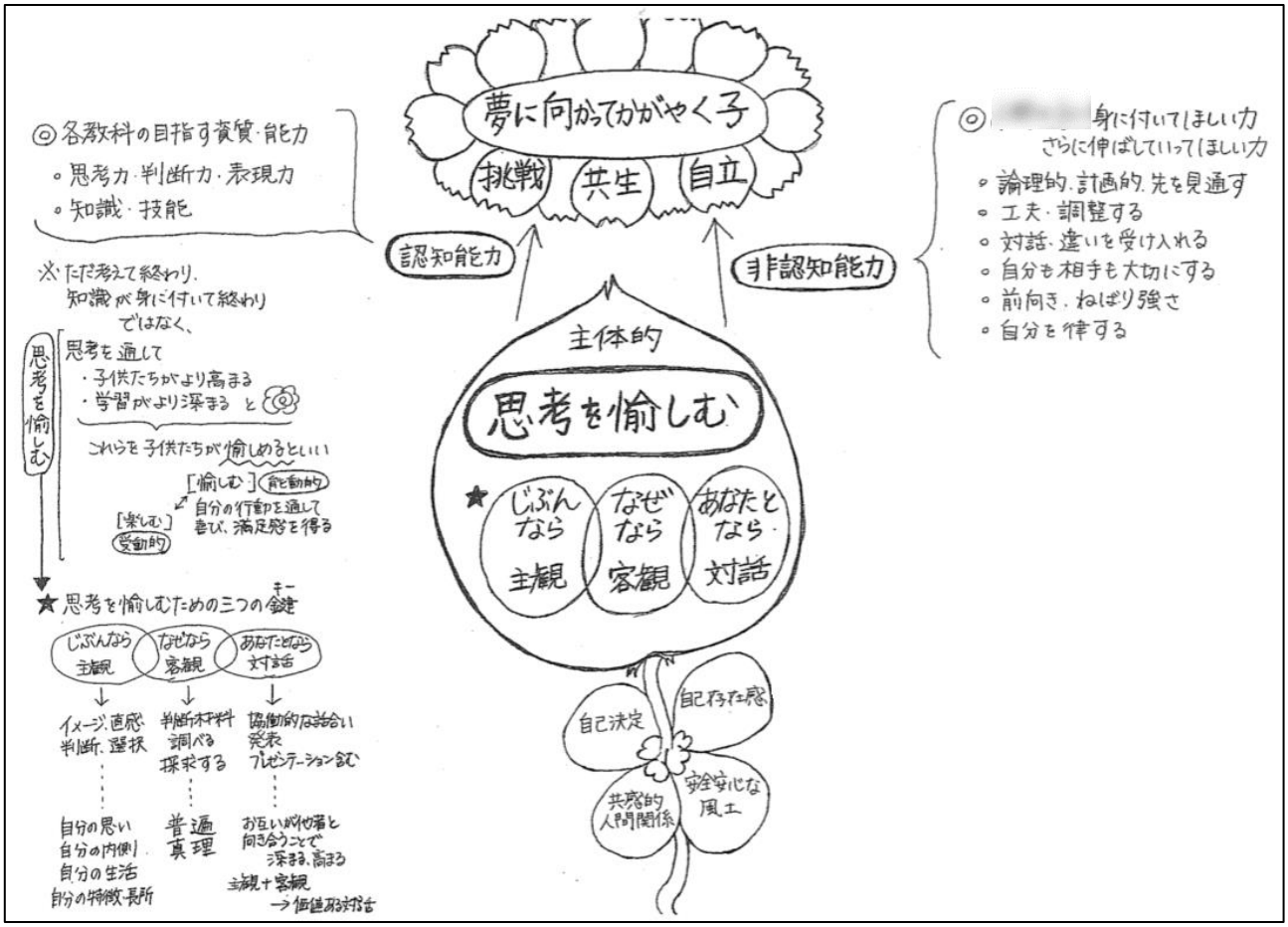
・中学校で教科指導を行うにあたり、目指す生徒の姿や授業に取り入れるキーを設定したことで、教科の特性を活かしながら、教育活動全体で生徒の力を伸ばすことができている。

未定稿

実践事例

1-E1 めざす具体的な姿の共通理解【校内研修、授業改善、具体的な姿】

（参考資料）



未定稿

実践事例

1-F1 教職員の共通理解【学校運営、義務教育学校準備、行動指標】

取組のねらい

学校教育目標を「自分事」にする

重視した非認知能力

- 自分と向き合う力
- 自分を高める力
- 他者とつながる力

課題感

・義務教育学校開校に向け、教職員の自分事の意識
・現在、小学校、中学校に所属する教職員の共通理解

取組の内容

（義務教育学校　準備段階（５月））

・小学校、中学校の教職員が合同で、学校教育目標（仮）から、具体的な「児童・生徒の姿」や「行動指標」を考える。

学校教育目標（仮）（令和６年度末の学校運営協議会で協議後、決定）
「自分と向き合う力、自分を高める力、
他者とつながる力を伸ばす」

・児童・生徒が親しみやすい言葉を使用
①自分と向き合う力→【じっくり】
②自分を高める力　→【ぐんぐん】
③他者とつながる力→【にこにこ】

・アイデアドーナツを使って、小学校、中学校の教職員が合同で児童・生徒に表れてほしい姿を話し合う。
⇒教職員が話し合うことを重視し、共通理解を図る。

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P 新しい学校の柱となる「児童・生徒の姿」を教職員全員で話し合い、自分事として考え、取り組む教職員集団の醸成。

A 学校間、発達段階等による教職員の考え方や思い、指導観の違いを共有することで、徐々に共通理解が図れてきている。

A 良好な関係の教職員集団。新しい取組への教職員の意欲。

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

・まとめることを急がずに、互いの考えや意見を出し合い、共通理解を図ることを大切にすることで、小学校、中学校、２校の教職員が自分事として前向きに準備を進めることができている。

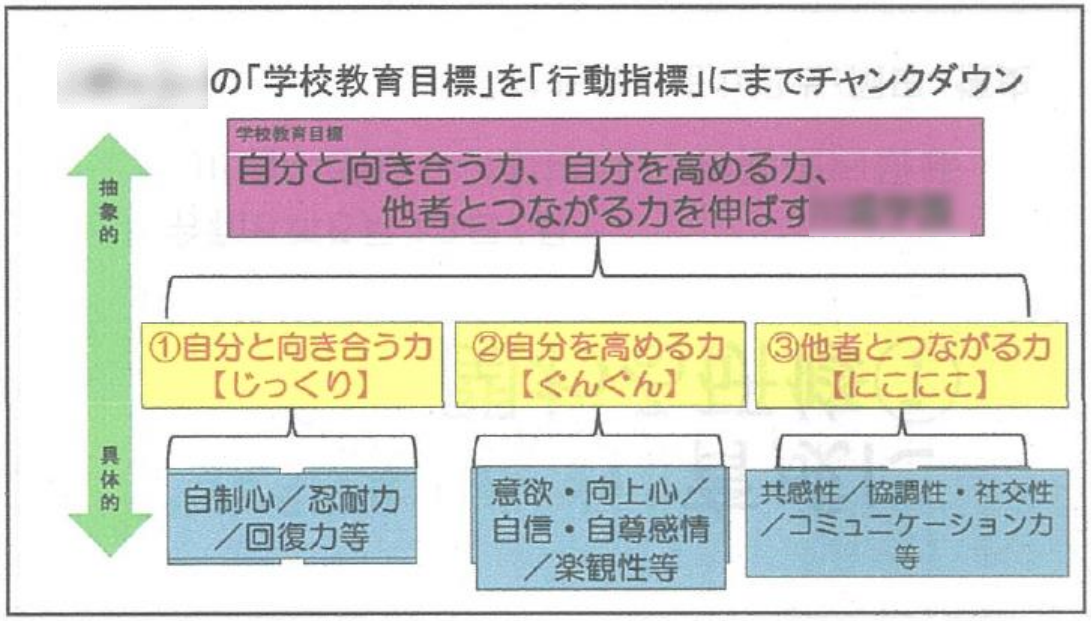
未定稿

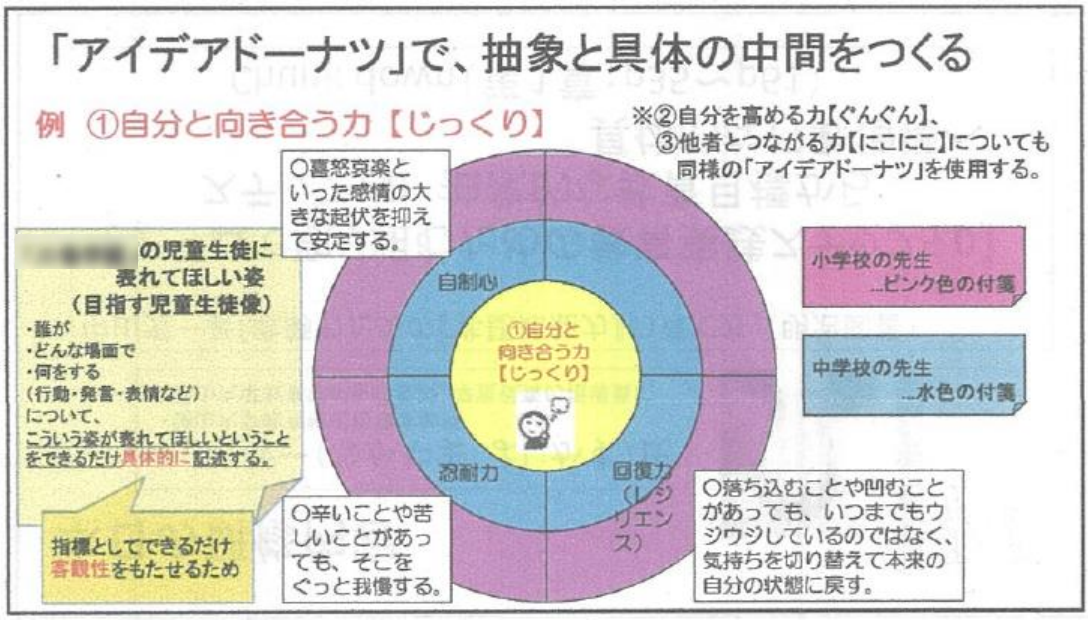
実践事例

1-F1

教職員の共通理解【学校運営、義務教育学校準備、行動指標】

（参考資料）





気を付けたいこと

和気あいあい！

○大切なのは、早くに完成品を作り上げることではない。
「普段からもっているイメージ」「児童生徒に対する見取りや関わり」
「そこから垣間見える児童生徒観や教育観」を、
取組のプロセスで共有することである。
→ お互いに否定することなく、和気あいあいと取り組みましょう！

○集団的（特に、校種の異なる集団）に考えると、難しい取組である。
→ 一貫校開校に向けて、
小中合同研修で取り組むことに大きな意味があるのです！

未定稿

実践事例

1-F2 子どもが主役の学校【学校運営、義務教育学校準備、教育課程】

取組のねらい

児童・生徒の思いを大切にした学校づくり

重視した非認知能力

- 自分と向き合う力
- 自分を高める力
- 他者とつながる力

課題感

・児童・生徒が主役の学校づくり
・教育課程に子どもの思いを入れる

取組の内容

（義務教育学校　準備段階）

・次年度の義務教育学校開校に向け、３つのブロックで教育課程についての案を作成。

・（１１月）次年度開校の義務教育学校について、児童・生徒に説明。
　学校教育目標、年間行事　等
「自分と向き合う力【じっくり】、
　自分を高める力　【ぐんぐん】、
　他者とつながる力【にこにこ】を伸ばす」

・「どんな学校にしていきたいか」を全員の子どもにアンケートで記入してもらう。（発達段階に応じたアンケート用紙）

・子どもの声を活かした、学校づくり、教育課程の再検討。

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P 「子どもが主役」子どもの声を活かした学校づくりや教育課程の編成。子ども自身が自分達の学校について考える機会。

A 発達段階に応じてブロックごとに説明をすることで、子どもたちが自分事として新しい学校への意欲を高めることができた。

A 学校教育目標にわかりやすい言葉を使うことで、低学年の児童が新しい学校へのイメージをもつことができた。

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

・子どもたちに、どのような学校にしていきたいかを考えてもらうことで、愛校心や新しい学校への期待を膨らませることができた。子どもの発達段階に応じた説明とアンケートも大切。

未定稿

実践事例

2-01 非認知能力を高めエージェンシーを発揮できる授業

取組のねらい

授業で非認知能力を高めエージェンシーを発揮できるようにする。

重視した非認知能力

計画立案力

実行力

課題感

生徒の計画立案力、実行力を育てることができる授業とはどのようなものだろうか。

取組の内容

授業：１年 生物基礎
学習課題：「1日に心臓から送り出される血液量はどのくらい(何L)だろうか」
AAR※サイクルを用いて以下の手順で行う
※Anticipation（見通し）→Action（実践）→Reflection（振り返り）

①学習課題解決に向けた仮説を立てる
②仮説を検証するための実験計画を立てる
　※計画、手順、役割等生徒自身で決める
③実験
　※計画どおりに進まない場合の対応なども生徒自身で考える
④結果の考察・まとめ
　※他者の考えを聞いたり、自分の考えを述べたりしながら協働してまとめを行う
⑤報告会

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P 生徒が自分達の力で課題解決を目指せるよう段階的に学習支援を行う。生徒が挑戦できるように心理的安全性を確保する。

A 生徒自らが実験計画・手順を決めたことで、主体的に活動に取り組み、協働的に学んでいる姿が見られた。

C 非認知能力を重視することで教科・科目の目標が薄れてしまわないようにすることが大事である。

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

授業準備をする際に「この授業を通して非認知能力を高めることができるか、エージェンシーを発揮する場面が作れるか」を考えることは、授業づくりの新たな視点となった。

未定稿

実践事例 2-02

各教科での授業改善【校内研修、授業改善、具体的な姿】

取組のねらい

各教科の授業改善で重視する力を整理する

重視した非認知能力

- 主体性
- 表現力
- 共感力

課題感

・教職員間での育成を図る力の共通理解が必要
・各教科の教科特性を意識した授業づくり

取組の内容

（指定校２年目）

・全教職員で学習場面での具体的なめざす生徒の姿と三つのキーの共通理解を図る。
「思考を愉しむ」
（三つのキー）
自分なら【主観】･･･自分の思いを表現する活動
なぜなら【客観】･･･判断材料を調べる、探求する活動
あなたとなら【対話】･･･協働的な話合い、発表

・各教科部会で、授業で特に大切にしたいコンピテンシーを検討し、教科の特性に合った授業改善の実施。
→どの力を伸ばすために、何をするのかを明確にする。
→子どもたちも意識できるような「投げかけ」「問いかけ」「振り返り」の工夫

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P 学校全体でめざす生徒の姿の共通理解を図る。その姿の実現に向け、各教科で教科の特性を活かした工夫や取組ができるような研究の体制づくり。

A それぞれの教職員が、自分事として自分の担当する教科での工夫を考え、授業改善に取り組むことができた。

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

・学校全体でめざす生徒の姿や授業のキーの共通理解を図った上で、各教科で工夫する場を設けたことで、教科の特性や教職員の能力を活かしながら、授業改善を行うことができている。

未定稿

実践事例

2-02 各教科での授業改善【校内研修、授業改善、具体的な姿】

（参考資料）

各教科で特に大切にしたいコンピテンシー

		国語	社会	数学	理科			英語	体育	技家	音楽	美術
					1年	2年	3年					
課題設定	状況を的確に把握しながら「何をすべきか」「どうやって成し遂げるか」を考え出せる能力		○		○			○		○		○
論理的思考	道理に即し物事を深く考えることができ、複雑なことでも分かりやすく説明できる能力			○			○				○	
疑う力	他者の意見を鵜呑みにすることなく、必要に応じて建設的な反論ができる能力						○					
表現力	自分の考えや想いはもちろん、どんなことでも相手が理解しやすいように伝えられる能力		○	○				○	○		○	○
共感、傾聴力	相手の話を真剣に聞き、相手を深いレベルで理解し、相手の気持ちを尊重できる能力							○	○			
柔軟性	変化への対応力と共に、その場その場で機転をきかせて行動を適宜修正できる能力					○				○		
寛容	自分とは考えや意見の異なる相手に対しても理解を示し、それを許容できる態度を持てる能力	○										
個人的実行力	自らの意思によって行動して計画を進め、何事にも自ら進んで取り組めることのできる能力											
ヴィジョン	将来、自分がどのように成長していたいかなど、未来の目標を明確に持つことのできる能力											
自己効力	何らかの困難に直面しても「自分ならできる」と自信を持って物事を進められる能力											
興味	自分が知らないまたは興味のない分野であっても、その情報を自ら収集しようとする能力				○							
耐性	困難な状況であっても、自分で決めたことに最後までしっかりとやり抜くことのできる能力											
感情コントロール	負荷が掛かる状況であっても、自分のストレスを自身でコントロールすることのできる能力											
決断力	自分の考えと客観的な事実とを照らし合わせながら、判断し、物事を決めることのできる能力	○				○						

未定稿

実践事例 3-01

学校の枠を超える申請型フィールドワーク

取組のねらい

「社会」の現場を生徒が自分の足で見に行く

重視した非認知能力

- 問題解決能力
- 判断力
- ねばり強さ

課題感

・自分の足で現地に行き、“五感”を使って物事を見る機会が少ない。学校という枠組を超えた経験をして欲しい。

取組の内容

○フィールドワーク実施の意義を明確にし情報収集を行う

事前
・「電話マナー・アポイントメント講座」を実施
・班で実施希望、計画について話し合い
・「校外活動計画書 兼 公欠願」作成→担当の承認を得る
・探究テーマや相手先に関する下調べ、質問内容の精選
・「アポイントメントメモ」を参考に相手先への連絡
→やり取り（オンライン・メール等）の依頼
→フィールドワーク実施の可否、依頼文書の要/不要を確認
※許可が得られなければ別の候補を選定

当日
・出発確認
・フィールドワーク実施（挨拶・礼儀・相手への配慮）
・集合写真撮影→帰校時確認

事後
・メールや電話等で訪問のお礼
・実施報告

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P フィールドワークの段取りを全て生徒が行う。基本的に教員が事前に手を回すことはせず、生徒の相談に応じるようにする。

P フィールドワークに参加する生徒は、申請が通れば公欠とする。

A 相手先の許可が得られず、なかなか訪問先が決定しないこともあったが、あきらめずにアポイントメントをとる姿が見られた。

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

フィールドワークの準備、実施、事後の活動までの全てを、自分達の力で行ったことから得られる達成感や経験は、生徒の視野を大きく広げた。実施後の探究活動がさらに活発になった。

未定稿

実践事例 4-01

生徒が自由に活動できるAgency Day

取組のねらい

様々なことに挑戦できる生徒の育成

重視した非認知能力

- 好奇心
- 計画立案力
- チャレンジ精神

課題感

探究活動に受け身な生徒が多い。生徒が自分で考えて自由に取り組む時間がない。

取組の内容

Agency Day：生徒が自由に活動できる日（１日）を提供する。
例）探究活動のフィールドワーク、ボランティア　等

・生徒への趣旨説明（１か月前）
　※自分に必要な活動等を事前に考えておく。
　※過去に他の生徒がどのような活動をしたのかを紹介する。
・生徒が計画を提出する（１週間前）
　※生徒の活動を把握するためのみに使用する。
・Agency Day（当日）
　※部活動は行わない。
・生徒が活動内容を報告する。
　※生徒の活動を知るためのみに使用する。
・事後アンケート実施

図や写真等

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P 計画と報告は生徒の活動を把握するために行い、変更等の指導は行わない。
P 計画と報告の提出は紙媒体が確認しやすい。
A １回目より２回目の方が生徒の活動の幅が広がる
探究の自由なフィールドワークの時間が確保される

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

生徒の活動内容が改善され、成長を実感することができるため、１年に複数回（２回程度）実施した方がよい。

未定稿

実践事例 4-02

生徒主導による校則の見直し

取組のねらい

生徒間の働き掛けにより規範意識を高める

重視した非認知能力

- 積極性
- 協働
- 創造性

課題感

言われたことだけをする生徒が多い。生徒の力でよりよい学校にできることを知って欲しい。

取組の内容

・校則の在り方を見直す（４～６月）
・職員主導から生徒主導にする。
・生徒会、生活委員会に加えて有志を募る。
・生活委員会会議にて今後の方針を協議
・「卒業生として誇れる学校であり続ける為の校則」を目指して意見交換
　↓　意見：高校生は社会からどのような目で見られているのかを聞いてみたい
　↓
企業、大学訪問　※訪問先は下記リンクから
　↓
ルールとして示す言葉、表現の整理
・新ルールの名称をアンケートで募集（11月）

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P 生徒会や生活委員会の活動に加えて有志を募った
A 校内での協議の後に、企業や大学の考えを聞くことで自分達の取組を客観的に見ることができた
P ルールの速やかな定着を期待し、全校生徒から新ルールの名称を募集した

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

自分の学校の校則だからといって自由に決めてよいわけではなく『決定する際の難しさ』や『責任』が伴う。これを知ることができるという意味で取組の意義は大きいと感じた。

未定稿

実践事例

4-03 図書委員会による企画・運営のブックフェス

取組のねらい

委員会活動の活性化、読書の機会創出

重視した非認知能力

- 積極性
- 協働
- 創造性

課題感

図書室の利用を増やし、読書を楽しんで欲しい。委員会と部活動でコラボ企画ができないだろうか。

取組の内容

企画書作成（企画の目的・内容・準備品・広報の仕方を検討）

↓

司書教諭及び文化部との打合せ

↓

企画決定　※８つの図書委員会発案企画、６つの文化部とのコラボ企画案作成

↓

企画ごとのグループで準備
（スケジュール確認、会場レイアウト）

↓　※中庭を活用

企画実施

＜企画の一例＞

・ブックイズラリー、福BOOK露、吹奏楽部コラボ企画
BOOKでビンゴ、自分だけのしおりを作ろう、邦楽部コラボ企画など

BOOK　FES　企画一覧
（開催日・開催場所はイベントスケジュールをご覧ください）

企画名	具体的な内容
BOOKでビンゴ （11/29放課後　図書館で開催）	本の紹介を聞きながらビンゴができるオリジナルゲームです。ビンゴになったんにはボスターや本の付録など景品がもらえるよ！ぜひみんなで楽しみましょう！
館内スタンプラリー	①図書館にある様々な本に合わせて！ジャンル！マスのスタンプラリーカードをつくり、そのジャンルの本を借りるごとにスタンプを押していく ②すべてマスが埋まったんは、貸出可能な券数が増えるチケットや賞状がもらえるよ！
ブックイズラリー	校舎内に設置しているんつのブースを回し、本のクイズに答えてスタンプを全部押したら参加しよう
福ｂｏｏｋ露	福ｂｏｏｋ露ーフーロにテーマごとのおすすめ本が入っています。どんなものがでるかお楽しみ。運命の本の出会いがあるかもしれないので、ぜひ借りてみよう
自分だけのしおりを作ろう！	長用紙に好きに絵を描いたり、自分で書自にカスタマイズ？ミュートしてオリジナルのしおりを作成しよう
中庭で本に触れよう！	いつも見られないようなタ時なマンガの本や図書委員がおすすめ紹介した本が棚で書棚の中庭入口（西側）に展示しているよ。その本を使って中庭で自由に読書しよう
お薦め本の紹介 ～読書の秋を楽しもう！！～	新規地区の高校生が選んだおすすめの本のコーナー展示をはじめ、期間中に様々なおすすめの本紹介を行います。図書館新を違った感覚、どんな感覚があるかチェックしよう
Make Inferences about facts in the case	（まずはゲーム説明をしますので表聞してください） 本を使って事件・問題（お題）を解決する 本の表紙に描いてあるアイコンや絵、本の中の言葉、文でなを解くカギになるものを探す ↓ （次に探すべき本の特徴となるヒントを含んでいるもの） ↓ 集まったヒントで考えて、考えて謎を解いていくゲームです
書道部とのコラボ企画	本の中の素敵なフレーズを書で表現！
美術部とのコラボ企画	絵文章で出会した絵と共に、絵を描くうえで参考にしている本の紹介やコメントなどを合わせて展示しています
邦楽部とのコラボ企画	邦楽部の演奏とともに音楽についてよくわかる本と一緒に展示をしています。ぜひご覧ください
茶道部とのコラボ企画	茶道部による展示＋手順に茶道がわかる本を方でさんみることができます
吹奏楽部とのコラボ企画 （11/29（水）12：20～中庭開催）	吹奏楽部による演奏＆イントロクイズで楽しんでみませんか。ベランダから中庭を眺めてクイズに参加も可能。クイズに正解したんには図書委員作成の景品を差しよげます

工夫のポイント　P　成果　A　課題　C

P　図書委員会のみの活動に限定せず文化部とコラボ企画を実施。

A　読書月間としての呼び掛けだけでなく、１カ月間にわたるフェスにしたことで、読書の秋、芸術の秋を実感できた。

A　屋外での読書を提案することで、学校の課題としていた中庭の活用方法の在り方を示すことができた。

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

「読書月間なので本を借りましょう」といった働きかけではなく、様々な企画を提案することで、楽しみながら読書に触れる機会を創出することができた。

未定稿

実践事例 5-01

アンケートによる生徒の変容把握

取組のねらい

アンケートにより取組の成果・課題を知る

重視した非認知能力

- 主体性
- ねばり強さ
- 自己肯定感

課題感

・今年度の取組を通して、生徒はどのように変化したのだろうか。

取組の内容

生徒アンケートの実施（４月・12月）

○質問項目（例）

- 「現時点であなたの『主体的に学ぶ力』を５段階で評価してください」
- 「現時点であなたの『ねばり強く取り組む力』を５段階で評価してください」
- 「次の非認知能力のなかで『平均値よりも高い／低い』と自己評価できるものを選択してください」

  選択肢の例：協働力、意欲、自己肯定感、想像力等
- 「自分の非認知能力を高めることができていると思う『場面』を選択してください」

  選択肢の例：授業、休み時間、放課後、部活動、学校行事等

↓

アンケート結果を生徒にフィードバック

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P 生徒自身による自己評価を４月、12月の２回集計することで全体的な傾向を把握した。

A 自律した学習者に向けて今年度取組を行った成果を実感することができた。

A アンケート結果を生徒にフィードバックすることで、より非認知能力を意識するようになった。

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

・生徒の実態把握だけでなく取組の成果を実感できたことで、自律した学習者に向けた学校教育活動全体に自信をもつことができ、よい方向に見直しが図られていると感じられた。

未定稿

実践事例 5-02

行動指標による取組の意識化と改善

取組のねらい

取組の意識化と改善のために行動指標を活用する。

重視した非認知能力

- 意志決定力
- 共感力
- 自己肯定感

課題感

・「みんなで目指す生徒の姿」を生徒・教員がともに意識できるようにし、行動の変化につなげたい。

取組の内容

○「みんなで目指す生徒の姿」作成

教育目標	「みんなで目指す生徒の姿」
【愛する】	思いや考えを伝え合い、聴き合う生徒 人とのかかわりやつながりを大切にする生徒
【考える】	自らよりよくしようと考える生徒
【行う】	粘り強くやり抜く生徒 新たなことに挑戦する生徒

○行動指標の作成→活用

①生徒が自らの行動を点数化→高いところや課題に気付く

②取組前に意識することを決定→取組後に振り返り（記述）

（意識できたこと）人とのつながりを大切にする

（理由）学校行事で一緒に応援することで他学年とのつながりや勝敗に対する気持ちを共有することができたから

工夫のポイント P 成果 A 課題 C

P 「みんなで目指す生徒の姿」を教育目標とつなげることで、生徒と教員がともに目指していく方向を確認することができた。

A 生徒は、振り返りを通してそれまで気付けなかった自分の強みや課題に気付くことができ、意識したい行動が具体化できた。

A 意図的に「みんなで目指す生徒の姿」の意識化を図ることで、徐々に理解が広がり、生徒の中に行動の変化が現れた。

Point Achievement Challenge

所感・振り返り

・生徒も教員も自分の考えを繰り返し言語化することで、抽象的な教育目標から具体的な行動指標をつなげることができ、共通理解や取組の改善が図り易い「みんなで目指す生徒の姿」になった。

未定稿

実践事例 5-03

アンケートによる評価【評価、義務教育学校準備、指定校２年目】

重視した非認知能力

- 自分と向き合う力
- 自分を高める力
- 他者とつながる力

取組のねらい

児童・生徒の変容を見取る

課題感

・指定校事業での取組について、客観的な評価が必要
・児童・生徒の成長の様子を見取る指針が必要

取組の内容

（義務教育学校　準備段階）

・学校教育目標に対して重点とする項目を設定し、年３回、５段階による児童・生徒アンケートを実施。

＜学校教育目標＞

自分と向き合う力【じっくり】
　項目：自制心／忍耐力／俯瞰力

自分を高める力　【ぐんぐん】
　項目：向上心／自尊心／楽観性

他者とつながる力【にこにこ】
　項目：敬意・尊重／受容・共感／相互理解

・変容から今後の支援や取組の修正を話し合う。

工夫のポイント P　成果 A　課題 C

P　年３回９項目でのアンケートの実施。生徒の負担感を減らす。

A　学校の取組への一つのデータとしての活用。

Point　Achievement　Challenge

所感・振り返り

・学校教育全体として、子どもたちがどのように変容しているか全体像を確認するためのアンケート。一つ一つの取組についての評価は難しく、普段は振り返りや見取りを活用している。

未定稿

実践事例 5-03

アンケートによる評価【評価、義務教育学校準備、指定校２年目】

（参考資料）

能力群	項目	質問内容	
		小学校４～６年生	中学校
対自的維持 ・調整系能力群 「自分と向き合う力」 【じっくり】	自制心	①授業中に問題の解き方を考えたり、家で宿題をやったりするときに、集中して取り組むことができていますか。	①やるべき課題や問題に向き合い、集中して取り組むことができていますか。
	忍耐力	②難しい問題や、簡単に理解することができない課題に出会っても、解決するために粘り強く取り組むことができていますか。	②難しい問題や、簡単に理解することができない課題に出会っても、解決するために努力することができていますか。
	俯瞰力	③自分がその問題をどこまで理解できているかが分かり、どうやって学習したらよいかを計画して、それを実行することができていますか。	③問題に対して、自分がどこまで理解できているかを正しく把握し、学習を計画し実行することができていますか。
対自的変革 ・向上系能力群 「自分を高める力」 【ぐんぐん】	向上心	④自分が嫌いなことや苦手なことがあっても、失敗を恐れずに自分の成長のために挑戦することができていますか。	④自分が嫌いなことや苦手なことがあっても、失敗を恐れずに自分の成長のために挑戦することができていますか。
	自尊心	⑤「自分ならできる」と自分の力を信じ、学校全体やクラスなどの集団のためにがんばることができていますか。	⑤「自分ならできる」と自分の力を信じ、集団に貢献することができていますか。
	楽観性	⑥物事や出来事に対して、前向きにプラスにとらえ、楽しむことができていますか。	⑥物事や出来事に対して、前向きにプラスに捉え、楽しむことができていますか。
対他的協調 ・協働系能力群 「他者とつながる力」 【にこにこ】	敬意・尊重	⑦周りの人のことを大切に考え、話したり行動したりすることができていますか。	⑦周りの人にとって、自分は学びの環境の一部であることを理解し、周りの人への配慮を考え、良好な関係を築くことができていますか。
	受容・共感	⑧周りの人の様子を分かってあげて、その人に寄り添い、その人が困っているときに助けてあげることができていますか。	⑧周りの人の状況を受け止め、寄り添い、周りの人が困っているときに手を差し伸べることができていますか。
	相互理解	⑨自分から周りの人に声を掛けたり、心を開いて周りの人と接したりすることができていますか。	⑨周りの人と意思疎通を図り、自ら周りの人に声を掛けて巻き込んでいくことや、心を開いて周りを巻き込んでいくことができていますか。